

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00811

研究課題名(和文)医療安全と紛争解決の有機的連携の促進のための複数領域による国際比較研究

研究課題名(英文)Comparative Study to Promote the Relationship between Patient Safety and Dispute Resolution

研究代表者

平野 哲郎(HIRANO, TETSURO)

立命館大学・法務研究科・教授

研究者番号：00351338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本及び海外(アメリカ、フランス、スウェーデン、オーストラリア)における、医療事故が発生した場合の調査制度、紛争解決制度、補償制度を調査し、医療安全の視点からの医療事故調査が紛争の予防や解決にどのように活用されているかを分析した。その結果、客観的な医療事故調査は、医療事故の原因を分析し、再発を防止するために不可欠であるだけでなく、事故に起因する医療機関と患者・家族の間の紛争を未然に防止し、また紛争化した場合にも迅速かつ適正な解決の基礎資料として有効であることが判明した。医療者の責任追及に対する懸念を払拭しつつ、事故調査と紛争解決を連携させる方策の制度面・運用面での整備が今後の課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療事故に対応する各種の制度は一定の成果を上げているが、連携が十分にとれていないため必ずしも医療事故に対する総合的な対応策にはなり得ていないことが明らかになった。そこで、医療の安全と質の維持・向上、医療事故が発生した場合の原因究明と再発防止策の策定、医療事故に関連する紛争の予防と円満な解決、適切な損失補償、司法手続への専門的知見の反映、人的・物的資源の有効配分、行為との均衡の取れた制裁等、医療事故に関わる多様な要請を最大限満足させるために、医療専門家を中心とする調査・原因分析・再発防止提言と法律家を中心とする紛争解決・損失補償手続を統合した制度を訴訟に前置することを提言する。

研究成果の概要(英文)：We surveyed investigation systems, dispute resolution systems, and compensation systems for medical accidents in Japan and other countries (the United States, France, Sweden, and Australia), and analyzed how medical accident investigations from the perspective of medical safety are used to prevent and resolve disputes.

As a result, we found that objective medical accident investigations are not only indispensable for analyzing the causes of medical accidents and preventing their recurrence, but also effective in preventing disputes between medical institutions and patients/families arising from accidents, and in providing basic data for prompt and appropriate resolution when disputes do arise.

The future challenge is to develop institutional and operational measures to link accident investigation and dispute resolution, while dispelling concerns about the pursuit of responsibility by medical personnel.

研究分野：新領域法学

キーワード：医療安全 紛争解決 医療訴訟 医療事故調査 裁判外紛争解決(ADR)

1. 研究開始当初の背景

医療事故に対して、医療安全実現の観点からのアプローチと法的責任追及の観点からのアプローチがある。

民事・刑事訴訟、行政処分等の法的責任アプローチは必ずしも医療の質の向上にとって有効ではないと考えられる。これに対して、産科医療補償制度、医療事故調査制度等の医療安全アプローチが近時導入されたが、二つのアプローチの関係の連携はいまだ十分とはいえない。

医療安全アプローチは、原因を究明し、再発を防止することを目的とし、法的責任アプローチは事故の責任者に制裁を加え、被害に対する損害賠償を行うことを目的とする。この二つのアプローチは一つの事故を起点としつつベクトルが異なるため、様々な点で違いが生じる。例えば、医療安全アプローチでは関係者に自己に不利な内容も含めて率直に事実を語ってもらうために免責を保障し、情報を匿名化するが、法的責任アプローチでは固有名詞付きの情報が各関係者の責任範囲を明らかにするためには不可欠である。このように医療安全アプローチは医療の自律性を尊重し、法的責任アプローチから医療者を防衛する機能を果たしているという側面がある。そのため医療界においてはできる限り法的責任アプローチを排除し、医療安全アプローチを強化したいという立場が強い。そのため 2015 年に始まった医療事故調査制度も法律家も含む外部調査を実施するという当初の案が撤回され、医療者を中心とする院内調査を原則とするという医療安全アプローチをベースにした制度になった。また、2009 年に創設された分娩に関連して発症した脳性麻痺に対する原因分析・再発防止と損失補償を図る産科医療補償制度も法的責任を問わないことを前提とする医療安全アプローチに基づく制度である。

医療安全アプローチの中では複数の専門家が事故情報を共有し、議論を通じて原因究明と再発防止策を検討するが、近時、専門委員の活用や東京地方裁判所のカンファレンス鑑定など法的責任アプローチにおいてもそのような方法の有用性が評価されつつある。このように法的責任アプローチが医療安全アプローチに接近しつつある状況が本研究の背景である。

2. 研究の目的

医療専門家と法律家が議論をするアプローチは徐々に実用化が試みられており、この手法をさらに進めていけば、人的・物的資源を有効に活用し、当事者の時間的・経済的負担も軽減しつつ、より適切な再発防止策や紛争解決に結びつけられることが予想される。例えば、韓国では、医療専門家と法律家のチームが医療事故について専門的調査を行った上で、調停による解決を行う医療紛争仲裁調停院が 2012 年から運用を開始し、医療の自律性を尊重した紛争解決に成果を上げている。この制度は医療安全と紛争解決の連携が有効性を発揮している実例として参考になる。日本の産科医療補償制度、医療事故調査制度も事実確認をした上で複数専門家が議論を通じて原因究明や再発防止策の検討を行っており、そこには法律家も参加している。また、2017 年度からは医療法に基づいて設置された医療安全監査委員会にも法律家が参加するなど医療と法の連携は進みつつある。

このように医療安全や紛争解決のために医療者と法律家が協力する幾つかの制度が立ち上げられているが、それらが相互に連携することなく設計・運用されているため、複数の手続が並行して行われ、結論も異なるなど改善の余地が少なくない。長期的・総合的なビジョンが十分でないまま構築されてきた感のある諸制度を俯瞰して、医療の提供者も利用者も納得できる制度を構築する必要がある。

そこで、本研究は、同一の医療事故を契機としながら異なる方向を指向する医療安全アプローチと法的責任アプローチを有機的に連携する制度の構築に向けて、法学者と医療安全担当者が協働で、制度横断的・国際比較研究を行い、その成果を医療安全確保と医療紛争解決の制度設計にフィードバックすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の研究方法の特徴の第 1 点は医療安全担当者と法学者の共同研究という点にある。本研究に分担研究者として参加する医療者は現在大学病院で医療安全管理部の責任者としての職責を担っており、このように多くの第一線の医療安全の専門家と、医事法を研究する法学者(全員が医事法学会会員)が協働して研究を行った例はない。

特徴の第 2 点は医療事故に関連する諸制度を横断的に検討する研究であるという点である。医療事故に関わる各種の制度を個別に取り上げたり、訴訟との機能分担を分析したりする研究は行われているが、横断的検討は乏しい。

第 3 点に法学分野と比較法研究の多様性である。法分野的には、民事訴訟法、民法、刑法、行政法、法社会学と医療事故に関連する全ての領域に渡る研究者が参加しており、海外調査はフランス、オーストラリア、スウェーデン、アメリカについて医療 ADR や無過失補償制度の調査を行った。また、国内については千葉の NPO 法人医療紛争相談センターの ADR、仙台弁護士会の医療 ADR について、インタビューやアンケート調査を実施した。

第4点に医療訴訟や医療ADRに携わっている弁護士に研究会で参加してもらい、訴訟とADRの比較、各ADRによる差異などについて報告をしてもらい、実務にコミットした研究を行うことができた。また、ADRや訴訟の当事者に対するインタビューも行った。

4. 研究成果

本研究の結果、日本における医療事故に対応する各種の制度はそれぞれ一定の成果を上げているが、連携が十分にとれていないため必ずしも医療事故に対する総合的な対応策にはなり得ていないことが明らかになった。例を挙げれば医療事故調査制度を創設する際に異状死体に関する医師の警察への届出義務についての医師法21条との関係が調整されなかったため司法解剖の結果が医療機関に提供されず、調査に支障が生じているし、産科医療補償制度における専門家の議論のプロセスが関係者に開示されないため紛争解決のために当事者の負担で改めて専門家の意見を求めなければならない。

これに対して、例えばアメリカでは、医療に起因して有害事象が発生した場合、速やかに院内で事故調査を行い、エラーがあった場合には経済的・非経済的な補償の申出を医療機関から行うCommunication and Resolution Programというシステムが普及しつつあり、医療安全のための事故調査が紛争予防・紛争解決に有効に活用されている。フランスでは、法律家・医療者・患者代表などで構成される鑑定委員会が事故の調査を行い、それに基づいて補償の勧告を行う行政型のADRが発展している。

そこで、本研究では、(1)医療の安全と質の維持・向上、(2)医療事故が発生した場合の原因究明と再発防止策の策定、(3)医療事故に関連する紛争の予防と円満な解決、(4)適切な損失補償、(5)司法手続への専門的知見の反映、(6)人的・物的資源の有効配分、(7)行為との均衡の取れた制裁等、医療事故に関わる多様な要請を最大限満足させるためにいかなる制度が適切なのかを探求した。

本研究では、国内外の各種の制度を調査した結果、日本で実現可能性のある医療安全と紛争解決の連携を促進する制度として、以下のようなモデルを検討した。

医療専門家を中心とする調査・原因分析・再発防止提言(第1ステージ)と法律家を中心とする紛争解決・損失補償手続(第2ステージ)を統合した制度を訴訟に前置し、制裁は、記録の改ざん・隠ぺいなど調査妨害が行われた場合や同一医療機関が勧奨された再発防止策を無視して同一の事故を起こしたような悪質性が極めて高い場合には、事故調査機関から調査結果を付して当局に通報をして行政処分と刑事罰の対象とする。

今後、このモデルについて、医療安全や紛争解決の専門家(各病院の医療安全担当者や医療事件を扱う弁護士・裁判官)、医療事故の当事者(医療事故原告の会など)からアンケートやインタビューで意見を求め、さらに医療経済の視点から人的・物的資源の有効活用という面での検討を加えて、提言としてまとめたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 平野哲郎・渡辺千原・中部貴央・佐藤伸彦	4. 巻 396
2. 論文標題 利用者から見た医療ADR 医療紛争相談センター利用者インタビューから描く実情と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 1-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 平野哲郎・渡辺千原・竹内治・中部貴央	4. 巻 391
2. 論文標題 医療ADR（裁判外紛争解決）の活動と利用者調査－医療紛争相談センター（千葉）利用者に対するアンケート調査を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 360-396
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 21
2. 論文標題 医事裁判例の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民事判例	6. 最初と最後の頁 62-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 平野哲郎・箕浦茂樹	4. 巻 35
2. 論文標題 無痛分娩に際して陣痛促進剤の投与方法等に5点の過誤を認めたものの、これらの過誤と児の脳性麻痺との因果関係が認められず、請求が棄却された事例（京都地判平成30・3・27判時2388号56頁）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 165-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 61
2. 論文標題 中国の実家に帰省中の統合失調症患者の自殺と精神科医の責任（最三小判平成31年3月12日）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 私法判例リマークス	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 60
2. 論文標題 米国の『対話と解決プログラム（CRP）』における当事者ケア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 患者安全推進ジャーナル	6. 最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 405-406
2. 論文標題 医療水準論と医療施設の特性、診療ガイドライン、添付文書、医療事故調査報告書	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 638-664
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 258
2. 論文標題 医薬品添付文書と医師の注意義務	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 別冊ジュリスト	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 94(9)
2. 論文標題 AI機器使用の不法行為における過失判断	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺千原	4. 巻 7
2. 論文標題 医療安全と紛争解決：連携可能性とその課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法と社会研究	6. 最初と最後の頁 123-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺千原	4. 巻 405-406
2. 論文標題 医療事故調査の紛争解決過程での利用と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 810-835
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎・渡辺千原・中部貴央・佐藤伸彦	4. 巻 396
2. 論文標題 利用者から見た医療ADR 医療紛争相談センター利用者インタビューから描く実情と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 1-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村由美、豊田郁子	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 事故後の対話・情報開示のプロセスが医療者や遺族に与える正の影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 92(3)
2. 論文標題 感染症対策の不備と専門家の活用の失敗	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 208-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 81
2. 論文標題 医療過誤についての新契約責任説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 私法	6. 最初と最後の頁 157-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺千原	4. 巻 387 / 388
2. 論文標題 訴訟による政策形成と法形成 - 社会変化の読み込みとその評価の在り方 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 561-594
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村由美、渡辺千原	4. 巻 383
2. 論文標題 院内医療事故調査の在り方 ある医療事故事例における事故調査と紛争解決過程からの考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 474-502
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大曲貴夫、楠 健二、中山伸一、松村由美	4. 巻 72
2. 論文標題 医療機関のリスクMAP-エリア66	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊保険診療	6. 最初と最後の頁 24-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村由美	4. 巻 56
2. 論文標題 「事故モデル」を用いた医薬品事故の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NICU mate	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haluna KAWASHIMA, Tetsu Isobe	4. 巻 28
2. 論文標題 Le monopole medical au Japon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Le monopole medical en question- France, Etats-Unis, Canada, Japon, Bresil, Vietnam -, Sous la direction de : Antoine Leca,	6. 最初と最後の頁 185-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯部哲	4. 巻 30
2. 論文標題 フランスにおける医学研究規制の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日仏法学	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 465
2. 論文標題 交通事故と医療過誤の競合と共同不法行為の成否 (最判平成13・3・13)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 37-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 29
2. 論文標題 ゲノム医学・医療の進展に向けた法的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 遺伝子医学	6. 最初と最後の頁 153-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 59
2. 論文標題 小中学校生徒の津波被害からの避難に際しての学校設置者の責任 (大川小学校国賠訴訟控訴審判決)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法律時報別冊私法判例リマックス	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 30
2. 論文標題 津波災害に関する過失判断 災害損害賠償責任論・序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 92-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 34
2. 論文標題 医療情報に関する法制度上の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 117-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 83(4)
2. 論文標題 医療行為に対する「同意」と親権 医療ネグレクトにおける法的対応を契機に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法学 (東北大学)	6. 最初と最後の頁 149-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小谷昌子	4. 巻 18
2. 論文標題 専門外の疾患に関する医師の診療契約上の専門医紹介義務が肯定された事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民事判例	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西知世	4. 巻 3
2. 論文標題 JR東海事件（最三判平28・3・1） 医事法学の視点からの検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害法	6. 最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 83(4)
2. 論文標題 医療行為に対する「同意」と親権 医療ネグレクトにおける法的対応を契機に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法学（東北大学）	6. 最初と最後の頁 149-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松宮孝明	4. 巻 385
2. 論文標題 危惧感説と具体的予見可能性説の異同再論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 1110 - 1125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuro Hirano	4. 巻 36
2. 論文標題 Medical Autonomy and the Use of Clinical Practice Guidelines in Lawsuits	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ritsumeikan Law Review	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平野哲郎	4. 巻 17
2. 論文標題 終末期医療において、延命措置を行わないとの主治医の決定が裁量の範囲内にあるとした事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民事判例	6. 最初と最後の頁 126-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺千原	4. 巻 13
2. 論文標題 紛争解決過程における専門知：医療ADRを例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仲裁とADR	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Ishibashi & Chihara Watanabe	4. 巻 14
2. 論文標題 Compensation Schemes for Damages Caused by Healthcare and Alternatives to Court Proceedings in Japanese Law	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ICCLP Publications	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯部哲	4. 巻 33
2. 論文標題 判決紹介 高血圧治療薬の臨床研究において、被告人がデータを改ざんなどして研究者らに提供し、論文を作成させ、学術雑誌に掲載してもらった行為について、旧薬事法66条1項にいう記事の記述には当たらないとされた事例 (東京地裁平成29.3.16判決)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 224-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐和貞治	4. 巻 39
2. 論文標題 特定機能病院に求められる医療安全:産婦人科手術との関わり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本エンドメトリオーシス学会誌	6. 最初と最後の頁 126-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小谷昌子	4. 巻 32(1)
2. 論文標題 メディカルプロフェッショナル・ネグリジェンスと診療ガイドライン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 帝京法学	6. 最初と最後の頁 1-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松宮孝明	4. 巻 63(6)
2. 論文標題 因果関係と客観的帰属	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学セミナー	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西知世	4. 巻 77(4)
2. 論文標題 医療と法の潮流を読む(11) 残された課題 : 意思決定を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 病院	6. 最初と最後の頁 333-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 90(11)
2. 論文標題 死と臓器移植への公的介入	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 平野哲郎
2. 発表標題 有害事象の積極的な開示と紛争解決～アメリカの「対話と解決」プログラム
3. 学会等名 患者・家族メンタル支援学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野哲郎
2. 発表標題 医療過誤における債務不履行構成の要件事実
3. 学会等名 関西民事訴訟法研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tetsuro HIRANO
2. 発表標題 Discussion between Experts and Lawyers in Court
3. 学会等名 Third Annual Research Meeting on Japanese and Australian Legal Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松村由美
2. 発表標題 リスク・コミュニケーション
3. 学会等名 第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松村由美
2. 発表標題 事例に学ぶ医療器具取り違えによる患者死亡から医療器具誤接続防止（形状変更）への歩み
3. 学会等名 第14回医療の質・安全学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 ヒト試料利用研究の法的課題
3. 学会等名 第62回日本糖尿病学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医学研究規制の現状と課題
3. 学会等名 第37回日本受精着床学会総会・学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 ゲノム編集に関する規制のあり方
3. 学会等名 2019年度日本医事法学会研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 災害医療の特徴とその法的課題
3. 学会等名 2019年度日本医事法学会研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯部哲
2. 発表標題 災害医療と法－医事行政法の観点から－
3. 学会等名 日本医事法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯部哲
2. 発表標題 研究における個人情報の保護と利活用－患者同意要件の意義と限界－
3. 学会等名 日本総合病院精神医学会シンポジウム「症例報告における患者同意取得必須化について考える：精神科臨床倫理との関係において」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsu Isobe, Haluna KAWASHIMA
2. 発表標題 Droit dur, droit souple ou autodiscipline, quelle réglementation pour les pratiques et procédures médicales: exemple de la médecine au stade final de la vie au Japon
3. 学会等名 パリ・ナンテール大学主催、パリ先端研究センター後援「法と文化：終末期医療に関する学際的複合的な視線」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平野哲郎
2. 発表標題 専門訴訟における複数専門家による口頭での知見提供～カンファレンス尋問
3. 学会等名 科学技術の不確実性と法的規制・研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野哲郎
2. 発表標題 医療過誤についての新契約責任説
3. 学会等名 日本私法学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野哲郎
2. 発表標題 診療ガイドラインと訴訟
3. 学会等名 京都府保険医協会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村由美
2. 発表標題 医療事故に遭遇した遺族に対する医療機関側の情報提供や両者の対話の現状と課題
3. 学会等名 第13回医療の質・安全学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯部哲
2. 発表標題 フランスにおける医学研究規制の状況等
3. 学会等名 日仏法学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯部哲
2. 発表標題 フランス医事(行政)法の近況等
3. 学会等名 フランス行政法研究会（第160回）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐和貞治
2. 発表標題 パネルディスカッション. 安全な医療とは？
3. 学会等名 第15回京都府医師会医療安全シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐和貞治
2. 発表標題 パネルディスカッション. 誤認[事例提示]:麻酔と医療事故の歴史
3. 学会等名 第22回京滋医療安全研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐和貞治
2. 発表標題 整形外科手術と麻酔・周術期管理－医療安全を中心に
3. 学会等名 京都運動器疾患フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐和貞治
2. 発表標題 診療科間の連携不足が医療事故につながる
3. 学会等名 京都府立医科大学医療安全研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐和貞治
2. 発表標題 医療安全推進への提言. 医療機器の安全な使用の推進
3. 学会等名 第5回日本安全医療学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐和貞治
2. 発表標題 特定機能病院に求められる医療安全. 小児科との関わりを中心に
3. 学会等名 第32回近畿小児科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小谷昌子
2. 発表標題 危険性のある施術に対する規制
3. 学会等名 いほうの会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小西知世
2. 発表標題 JR東海事件(最三判平28・3・1)医事法学の視点からの検討
3. 学会等名 第3回日本障害法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 個人情報保護法改正後の医療・医学研究における問題点
3. 学会等名 第27回日本脳ドック学会総会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医学研究における個人情報の取扱いと今後の課題
3. 学会等名 遺伝医学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医療情報に関する 法制度上の課題
3. 学会等名 第48回日本医事法学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeto Yonemura
2. 発表標題 Several Issues on Data Subject's Consent for Data Transfer
3. 学会等名 BESETO Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医療過誤訴訟における権利法益侵害・損害の要件事実
3. 学会等名 医療訴訟と要件事実・講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 医学の不確実性と 医療過誤判例
3. 学会等名 環境法政策研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 奥田純一郎・深尾立共編（磯部哲）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 ライフサイエンスと法政策 製薬と日本社会 創薬研究の倫理と法	

1. 著者名 市川正人・大久保史郎・斎藤浩・渡辺千原編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 517
3. 書名 現代日本の司法	

1. 著者名 甲斐克則編（米村滋人）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 268
3. 書名 医療情報と医事法	

1. 著者名 松村由美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 メディカルレビュー社	5. 総ページ数 170
3. 書名 看護師特定行為研修共通科目テキストブック医療安全学	

1. 著者名 松村由美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 全日本病院出版会	5. 総ページ数 80
3. 書名 Monthly Book Derma No.279 皮膚科医のためのリスクマネジメント術 メディエーションとコンフリクトマネジメントも含めて	

1. 著者名 甲斐 克則編集（磯部哲・小西知世・平野哲郎）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 592
3. 書名 医事法辞典	

1. 著者名 いはつの会（磯部哲編集）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 尚学社	5. 総ページ数 222
3. 書名 医と法の邂逅 第3集	

1. 著者名 井上悠輔、一家網邦（磯部哲）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ	

1. 著者名 日本臨床腫瘍学会（磯部哲）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 872
3. 書名 新臨床腫瘍学（改訂第5版）	

1. 著者名 安永 正昭、鎌田 薫、能見 善久（米村滋人）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 商事法務	5. 総ページ数 528
3. 書名 債権法改正と民法学 債権総論・契約（1）	

1. 著者名 河上 正二、大澤 彩（米村滋人）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 744
3. 書名 人間の尊厳と法の役割 民法・消費者法を超えて	

1. 著者名 瀬川 信久、能見 善久、佐藤 岩昭、森田 修（米村滋人）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 574
3. 書名 民事責任法のフロンティア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	磯部 哲 (ISOBE TETSU) (00337453)	慶應義塾大学・法務研究科(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	松村 由美 (MATSUMURA YUMI) (10362493)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	米村 滋人 (YONEMURA SHIGETO) (40419990)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授 (12601)	
研究分担者	渡辺 千原 (WATANABE CHIHARA) (50309085)	立命館大学・法学部・教授 (34315)	
研究分担者	松宮 孝明 (MATSUMIYA TAKAAKI) (80199851)	立命館大学・法務研究科・教授 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小谷 昌子 (KOTANI MASAKO) (80638916)	神奈川大学・法学部・准教授 (32702)	
研究分担者	小西 知世 (KONISHI TOMOYO) (90344853)	明治大学・法学部・専任准教授 (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関